



港の魅力を  
さらに高めます。

IKEDA TOYOHITO

栗林公園のおおらかさや、海に立つ城跡のダイナミックさも感動的です。栗林公園の茶室「掬月亭」では、書院造りでは見られない丸太が使われ、南国的な開放感を生み出しています。香川県の職員でもあった山本忠司さんの瀬戸内海歴史民俗資料館の建物にも圧倒されました。四角の連続性の展開は今見ても斬新です。そして、香川県は、何といても海路が魅力。今の多くの街は陸路側に顔があり、海から近づくといわゆる裏口を見せてしまうのですが、

**知事** 最後に香川県の魅力について、お聞かせ願えないでしょうか。  
**西沢** まず風景の素晴らしさ。おむすび山があり、水田のため池も鏡のように平らになっている。それが、そのまま波穏やかな瀬戸内海と島々になる。陸と海との連続感に感動します。建築の世界で言えば香川は誰もが知る「建築王国」です。中でも丹下健三さんの香川県庁舎は、単に名建築というだけでなく、戦後日本の民主主義や自由の到来を象徴するいわば記念碑でもあります。  
**妹島** 四国全体に言えることかもしれませんが、都市でありながら、とても「おおらか」で自由な雰囲気漂っています。



香川県知事

池田 豊人

高松市などは海側に正面を見せています。海からアプローチできるという強みがあります。  
**知事** なるほど。海と陸の「連続性」、そして「おおらかさ」、さらに「海路」。これは、香川県の魅力であり、これからのまちづくりにおいても、非常に重要なキーワードになりそうです。お二人とも、本日は貴重なお話をありがとうございました。

# 海に陸におおらかな 風景がきらめく香川県。

棚田も復活しています。豊島美術館はいつ行っても、まるで昨日完成したかのようなきれいさがあります。アーティストである内藤さんの作品の一部として、美術館の皆さんが心を込めて清掃してくださっていて、頭が下がる思いです。



風土も建物も  
開放的な魅力に  
あふれています。

SEJIMA KAZUYO

NISHIZAWA RYUE

**知事** 妹島和世さんと西沢立衛さんによる建築家ユニットSANA Aの設計による中四国最大規模のアリーナが、香川県高松市に誕生しました。この「あなぶきアリーナ香川」は、外観のユニークさ、環境との調和という点で評価が高く、さらにミュージシャンの方からは「使い勝手が良い」という声をいただいています。  
**妹島** 建設予定地の前に広がる瀬戸内海の眺めが印象的で、周囲の風景と一体となるような建物を作りたかったという思いから設計が始まりました。  
**西沢** さらに、公園の延長のイメージで、くつろげる場所を目指しました。  
**知事** 駅の方からのアプローチでは最後の緩やかな坂を登ると、突然に海が開けます。そこで、皆さん声を上げたり、記念撮影をしたり。コンサートの待ち時間も単に待つのではなく、海を眺めながら過ごしています。  
**西沢** ドームでありながら閉鎖的な箱に閉じてしまわず、軒を出すことでその空間が明るい透明感を生み出して、人が自然と集まるような効果を出しています。閉館時でも歩けるので、開放感の象徴としての軒下でもあります。アリーナの外の魅力的な都市空間です。海が見えればアリーナの個性になります。

**知事** 「海が見える体育館というのは見たことがない」と、皆さん言ってくださいます。やはり香川県の財産の一つは瀬戸内海、そして海と言えば港です。高松港のみ



あなぶきアリーナ香川(香川県立アリーナ)

## SANA A

妹島 和世

茨城県出身。1987年に妹島和世建築設計事務所を設立。

西沢 立衛

神奈川県出身。1997年に西沢立衛建築設計事務所を設立。

1995年に妹島氏と西沢氏でSANA Aを設立。「金沢21世紀美術館」(2004)、「海の駅なおしま」(2006)、「ニューミュージアム」(2007)、「あなぶきアリーナ香川」(2025)など数々の建築を手掛ける。日本建築学会賞、プリツカー賞、2025年王立英国建築家協会ロイヤル・ゴールド・メダルなどを受賞。

ならずアートの島「直島」の港にもお二人の作品がありますね。  
**妹島** 「海の駅なおしま」は、もともとは券売所の建て替え計画でしたので小さな敷地を指定されました。しかし、フェリーでいらっしゃる方を迎え入れる島の玄関ホールとなるような開放的で自由に人が出入りできるようなものを作ったらどうだろうと、ターミナル全体に大きな屋根をかけることを提案しました。そして、周囲の県の土地を合わせて使うことを承諾いただいて、現在の建物が実現しました。  
**知事** 港は非常に大事な場所だと考えています。非日常を味わえる船旅や島旅の出発点、ワクワク感を後押しするような場所であればと思いますね。その非日常を味わえる島の施設の一つが豊島美術館\*ですね。  
**西沢** 建築とアートと環境を一体化できないか、自然に現れてくるような美術空間を作れないか、というのが始まりでした。豊島は水が豊かで、美術館の近くに

※ 建築家・西沢立衛氏とアーティスト・内藤礼氏による美術館